

地図データを用いて 仙台市を分析しよう

担当教員：荒木 笙子 助教、姥浦道生 教授（都市・建築学専攻）

連絡先：s_araki@tohoku.ac.jp

受入人数：最大8名

実施時期：集中講義（日程については初回講義にて受講者と相談して決定します）

初回開始日時及び場所：10月6日（木）16:20～（人間・環境系教育研究棟5階504室）

GIS（地理情報システム）とは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持った空間データを管理・加工し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である。GISの導入によって、都市を計画する際に必要な都市情報について、様々な観点からの分析・把握が効率化された。現在では行政や企業、研究に至るまで幅広く利用されている。ただしあくまで空間データを扱うことができるにとどまっており、実態把握には現地調査も不可欠である。

本授業では、GISソフトウェアを用いた都市分析を実際に行い、都市の実態との関係性について比較・考察を行うことを目的とする。具体的な授業の流れとしては、最初に仙台市の「人口」「商業」「農業」など身近なデータを用いて、現状や将来予測の結果をGISで図示しながら分析する。次に、結果に基づいて複数の対象地区を抽出して現地見学を実施する。最後に、分析結果から把握できた実際の「街の姿」と、実際の「街の姿」との関係性を比較・考察する。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、上記事項は変更になる可能性があります。

データ解析から見える
街のすがた

現地調査から見える
街のすがた

